

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

JSiSE

発行日 2005年11月30日
発行所 教育システム情報学会
発行者 伊藤 紘二
〒533-8533
大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学内
TEL06-6990-3638 FAX06-6990-3638
<http://www.jsise.org/>
E-mail: secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.138

第6回研究会発表募集のお知らせ

テーマ:「情報教育の実績と新しい展開」及び 情報教育全般

担当: 研究会委員会
松永公廣 / 西野和典

開催日: 2006年3月17日(金)

開催場所: 沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905 番地 電話: 0980-55-4003(代)

発表申込締切: 2006年1月16日(月)

原稿提出締切: 2006年2月13日(月)

発表申込先: 摂南大学 経営情報学部 松永公廣

〒572-8508 寝屋川市池田中町17番8号

電話: 072-839-9266

e-mail matunaga@kjo.setsunan.ac.jp

発表申込方法: 電子メール、Fax、手紙で下記の項目をお送りください。

(注)メールで申込まれる場合は、件名に「第6回研究会申込」とお書きください

発表タイトル

- (1) 発表者(登壇者に○)
- (2) 所属
- (3) 概要(200字程度)
- (4) 連絡先住所、氏名、電話番号、電子メールアドレス
- (5) その他、発表に関する要望

原稿送付先

■郵便で送付される場合

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8

大阪経済大学内 教育システム情報学会事務局

■電子メールで送付される場合

e-mail secretariat@jsise.org

(注) PDF形式にて送信下さい



2005年度第2回研究会報告

テーマ:マルチメディア教材の作成とその活用について

担当：研究会委員会
磯本征雄／山崎初男／野崎浩成

e-Learning で活用することを目的として開発されたマルチメディア教材を対象に、その作成と活用の実態を、作成者に直接聞くことを目的に研究会を開きました。研究発表の内容は、実際に作成された教材に関する内容と、その活用法や活用実績に関するものでした。具体的な内容に関わる研究発表でありましたので、参加者には分かり易い研究会であったと思います。相互に研究の内容は知っている本学会員の研究会ではありましたが、直接にマルチメディア教材の関係者から話を聞くことが出来て有意義でありました。

- ・開催日：2005年7月2日(金)
- ・会場：名城大学 天白キャンパス

1. 情報モラル体験学習教材

一高等学校普通教科「情報」における授業実践－
堀田理恵、野崎 浩成、江島徹郎、梅田恭子
(愛知教育大学)

本研究では、高校生を対象とした情報モラル体験学習教材を開発した。その特徴は、①情報モラルに関連するトラブルを仮想体験できる。②学習者は各自で意思決定をしながら学習を進めることができる。③ワークシートへの記入により、指導者が学習記録を把握し、学習者は自らの学習を振り返ることができる。④問題形式の採用により知識の定着をはかる、などである。特に本教材では、電子掲示板(BBS)における情報モラルを学習内容として扱った。その理由は、高校生の BBS の利用頻度は低く、普通教科「情報」の授業では実習としてあまり触れられないが、BBS は今後利用する可能性が高いと思われることと、現役高校教師の要望があったからである。情報教育を専門に学んでいる大学生 33 名に教材評価を依頼し、教材の改善を行った。改善後の教材を用いて、高校生 2 年生 72 名を対象に授業実践を行い、教育的効果を分析した。その結果、トラブルを仮想体験することは効果的であること、本教材により、電子掲示板におけるトラブルが身近であると感じ、情報モラルへの関心を抱かせたこと、などが示された。以上の評価結果を踏まえ、最終的に、「改良版・情報モラル体験学習教材」を完成させた。

2. ダイナミックマルチメディアコミックを目指した鑑賞システムの構築

高田伸彦 (金沢学院大学)

従来、多くのコミックは、印刷媒体が主体で発表されていたが、いまでは Web 上で数多くの作品を鑑

賞できる。コミックの大手出版社である講談社、小学館、集英社でも宣伝・販売用に多くの Web コミックが制作されており、Web コミックの制作手法としては、マルチメディアの要素をどのように組み込んで制作するかが重要な課題となっている。昨今、Flash を用い、アニメーションの要素を取り入れてきた Web コミックが、数多く発表されている。われわれは、数年前から、デジタルコミックに関して研究してきたが、今回は、台詞にも動きを持たせ、画像、サウンド、音声等のバランスを考慮しより、ダイナミックで、シナジー的な要素を持ったデジタルコミックを構築し、制作した。

3. マルチメディア教材を活用した、効果的な英語の発音訓練

汪 曙東 (山口大学)、島 幸子 (山口東京理科大)、
竹山恵里、ピギンズ・マイケル (山口大学)

「日本人は英語が苦手」という言葉をよく聞くが、ひとつの理由は多くの日本人が自分の発音に対して自信が持てないからだと考えられる。確かに、様々な文献で、日本の英語教育には少なからず問題があると指摘している。筆者らは研究者、実践者両方の立場から、様々なマルチメディア教材を作製し、小学校 (小学生被験者) と専門学校、大学 (青年被験者) の生徒達に対する、英語発音の訓練を行った。その結果：小学生には、発音に関するビデオやコンピュータゲームなどのマルチメディア教材は最も効果があり、一方、青年には、筆者らが Flash MX で作製した子音、母音の発音の仕組みについてのアニメーションが最も効果的であることがわかった。

4. 機械安全教育のための e-Learning 設計

柄尾昌洋、木村哲也 (長岡技術科学大学)

アルフレッドノイドルファー (ダルムシュタット工科大学)

湯川高志、中平勝子、福村好美 (長岡技術科学大学)

A new e-Learning environment suited for education of Machine Safety Engineering is introduced. On this area, “extensive knowledge” and “practical-minded knowledge” are very important and they are captured through training. Such kind of training cannot be conducted on an e-Learning environment, thus the environment must provide virtual training. To achieve the virtual training, authors propose simulation environment combining a visual programming system and an electronic bulletin board system. Authors also propose use of computer graphic-based multimedia materials to help feeling dangerous situations.

5. e-Learning 環境におけるネットワークサービス提供モデルについて

白石義昭 (近畿大学)、福田洋治 (愛知教育大学)、森井昌克 (神戸大学)

本稿では、既存の教材配布やレポート提出などの分散して提供されているサービスを結合するネットワークサービス提供モデルを提案している。提案モデルは、認証機能とセッション転送機能を有するサービスコネクタと呼ぶネットワークサービスを制御するソフトウェアを導入することで実現される。安全性、管理の容易さ、拡張性について考察を与え、提案モデルの有効性を示す。さらに、サービスコネクタを実装し、Web サービス、Windows ファイル共有サービスを例にとり、提案モデルの実現が容易に可能であることを示す。

6. コンピュータ・ゲームの学習教材としての活用法

磯本征雄 (岐阜聖徳学園大学)

情報教育は、語学や数学の教育と同様に、一般教養科目と専門科目の二面がある。また、プログラミング言語の文法や各種ソフトウェアの活用方法の習得の局面、ソフトウェア開発や情報システム開発などの創造的な訓練といった局面がある。本論文では、情報教育における創造的な局面に注目してコンピュータ・ゲームの活用法について議論する。

7. PC 内仮想空間との出入インターフェイス構築

井上祥史、福盛田剛 (岩手大)、永田昌伸 (盛岡工業高)、伊藤 敏 (岐阜聖徳学園大)

Java3D で構築される仮想空間の物体へ USB-I/O インターフェイスを介して現実空間へアクセスする系を構成し、補助教材として特徴をまとめた。仮想

空間でピックアップした仮想物体をプローブとして用いて、特定の仮想領域へアクセスして LED を点灯、または外部の光の強弱により仮想空間を移動させるなどの系を試作した。このような系は興味を引きつけるため学習意欲を高めることが期待され、適応可能な分野や効果などの考察した。

8. 視覚障害者用 Web 教材の試作と評価

宮尾秀俊、國宗永佳、不破 泰 (信州大学)

視覚障害者が音声ブラウザを用いて Web 教材を理解する際に問題となる教材中の図、グラフ、表、数式、およびプログラム命令に対し、それらの表現方法を提案する。また、提案した表現法に沿って、2 つの既存 Web 教材の修正を行い、4 人の視覚障害者を対象に修正教材のチェックを行ってもらった。本稿では、その評価結果と解決法について報告する。

9. 手紙型モデルに基づいた中高齢者向け Web メールシステムの提案

入部百合絵 (豊橋技科大学)、

佐々木喜一郎 (名古屋大学)、遠藤守 (中京大学)

安田孝美、横井茂樹 (名古屋大学)

近年、中高年齢者と情報技術との関わりが重視されている中、依然として年代によるデジタルデバイドが存在している。本研究では、2003 年に実施した中高齢者向けパソコン講習会でのアンケート調査結果をもとに、中高齢者 (特に初心者を対象) の利用を前提としたメーラーのユーザビリティ設計を行う。具体的には、手紙に基づき、メーラーに搭載する機能を限定し、メールを容易に送受信するための手紙型モデルに基づいた Web メールシステムの提案を行う。

10. 授業の多角的記録・分析・構成方法についての基礎的研究Ⅳ

一 「御幸山中学校」の授業実践の分析事例を通して一

平山勉 (名城大学)、後藤明史 (名古屋大学)

竹内英人 (名城大学)、

沢辺良勝 (ソニーブロードバンドソリューション)

本研究では、教育実習生及び初任者教師の授業能力の育成を支援するスキルクリエイタシステムを開発し、教育現場での適応を通して、システムの改善を行い、教育現場と研究者の交流、校内研究・現職教育の活性化を目指している。これまでに開発してきたマルチアングル映像による授業の収録を、本スキルクリエイタシステムに適応した「御幸山中学校」の事例分析を報告する。

2005年度第3回研究会報告

テーマ:先進的学習支援システム

担当：研究会委員会
平嶋宗／小西達裕

2005 年度第 3 回研究会は、「先進的学習支援システム」をテーマとして広島大学東広島キャンパスにおいて開催されました。テーマにあわせて新規性にあふれる 8 件の研究発表が行われ、また、本会会長に就任された伊藤紘二先生の特別講演「オープンラーニングモデルと開かれた学会を目指して」も行われました。参加者も 39 名にのぼり、各発表、ご講演に対して、活発な意見交換が行われ、盛況のうちに終了いたしました。皆様のご参加、ご協力を厚くお礼申し上げます。



- ・開催日：2005 年 9 月 30 日(金)
- ・会 場：広島大学東広島キャンパス学士会館

1. 「問題を作ることによる学習」の分類と知的支援の方法

平嶋 宗 (広島大学)

問題を作ることが学習の有効な方法であることは、すでに広く認識されているといえる。しかしながら、なぜ、どのように有効であり、また、どのような形態の作問がありえるかについては、十分な整理がなされているとはいえない。本稿では、学習支援システムを設計・開発する観点から、作問学習の意義とその形態についての整理を試みた。さらに、実際の作問学習支援システムの設計・開発および運用事例を紹介した。

2. 問題解決指向型学習におけるリフレクション支援システム

瀬田和久, 梶野貴司, 馬野元秀 (大阪府立大学)
池田 満 (JAIST)

領域の初心者に対して問題が与えられ、問題解決活動と並行して、その実施に必要な知識の習得を行う学習形態を問題解決指向型学習と呼んでいる。このような学習形態では、領域知識に関する自己の理解状態を適切に把握し、問題解決に必要な知識の範囲を見極め、自分自身を効果的に教育する(学習)プランを、適応的に構成するといったメタ認知活動の実施が、問題解決と学習活動の双方を合理的に進めるために重要である。本研究では、問題解決過程での誤りを貴重な学習資源ととらえ、誤りの原因を分析しそこから学習する過程を支援することを目指したメタ認知(特に、リフレクション)支援システムの構築を進めている。本稿では、問題解決指向型学習の特性を分析し、リフレクション支援の基本方針を設定するとともに、その原理的知識となるリフレクションタスクオントロジーと、これに基づくリフレクション支援システムについて報告する。

3. 教材設計における部品化と合成方式

岩根典之, 川本真行, 松原行宏,
中村 学 (広島市立大学)

再利用という観点から、教材の部品化とその合成による教材設計について検討している。部品化や合成の設計プロセスを支援するとともにその過程で獲得される知識により学習者を支援することを目指している。本稿では再利用の考え方を説明して、表裏一体にある教材の部品化と合成についてその基本フレームワークを述べる。その中の要素技術として、教材部品の検索と教材構造をグラフ化するシナリオを取り上げて概要を示す。そして既存の教材を対象に教材部品や教材構造の表現について比較分析を試みた結果から教材部品の粒度や知識表現モデルに関する検討結果を報告する。

4. オープンラーニングモデルと開かれた学会を目指して(特別講演)

伊藤紘二 (東京理科大学)

知と言語の身体性ならびに社会性と、発達の最近接領域の理論を根拠に、オープンラーニングモデルを提案し、教育・学習支援システムが、人の知と ICT の知の幸福な協調に基づいてデザインされるべきことを論じ、最後に、教育システム情報学会は、人の知と ICT の知の協調による、開かれた教育・人材育成システムを創造することを目指して、研究者、教育機関、企業、公共団体、行政に対して開かれた共同作業の場を提供することが、その役割であることを述べて、そのためのワークショップとフォーラムの提案をしている。

5. 製造現場における知識管理支援システムの開発

森谷俊洋, 仲島 晶 (オムロン株式会社)

国内の製造業では「2007年問題」と呼ばれる熟練技術者の大量退職が問題となっており, 若手技術者への技能伝承を支援するシステムの実現が期待されている. 本研究では製造知識管理システム MKMS (Manufacturing Knowledge Management System) を開発した. MKMS の知識管理機能は次の3つの特長を持つ: ①事例ベースアプローチに基づき, 過去事例に熟練技術者が持つ情報を付加して形式知を生成する. 事例集合をカバーする知識モデルの構築が困難な場合に特に有効である. ②事例に付加する情報は複数の観点から記述される. 特に, 領域情報と意味情報からなる画像の着目点, および, 情報の参照順序を定義するメソッドは, 非熟練技術者の事例理解を支援する独自機能である. ③入力された知識は知識記述言語 CDML (Context Description Markup Language) による記述に符号化される. XML に基づいて定義された CDML は, 製造業における汎用的なマークアップ言語としては初の試みでもある. これら知識管理機能に加えて, クライアント・サーバ環境への対応等実務的な機能も備えた MKMS システムは, 基板実装工程における不良要因推定手法を格納した基板実装知識 DB, および, 画像認識装置のパラメタ設定手法を格納した設定ノウハウ DB として応用され, 従来は文書化が困難であった熟練技能の共有化に活用されている.

6. 知識経営の考え方に基づく学校教育のための協同折衷的教授設計法の開発

片瀬拓弥, 山本洋雄, 六浦光一,
大下眞二郎 (信州大学)

教授設計理論は, 学習理論が行動主義, 認知主義, 構成主義, 社会的構成主義へと推移する中, より良い学習環境を実現する教授モデルを構築してきた. しかし, 近年, 教授設計に用いる手法が複雑化している一方, どの手法を組み合せれば最適な学習環境ができるかという方法の模索は, 教授設計者の大きな負荷となる. また, 教育の様々なニーズに応ずるため, 実践的経験を活かし, 教育実践者相互間の協同で教授設計する必要性も出てきている. 本研究では, 知識経営の考え方を活用し, 教育実践者相互間の協同による教授設計と, かつ複雑化した学習理論に基づく手法を適切且つ効率的に折衷するという, 2つの特徴を有する協同折衷的教授設計法を開発した. 次に, 本教授設計法により設計した eラーニングを含む授業に対し, 認知主義及び構成主義的学習効果の有効性を評価した. その結果, 授業要素及び授業形態が学習者ニーズに応じ適切に折衷されていることを確認した. 今後の課題は, 行動主義的学習効果の有効性を評価し, 総合的に協同折衷的教

授設計法の有効性を確認することである.

7. 選択問題の自動生成に関する構想

松田憲幸, 小川修史 (和歌山大学),
平嶋 宗 (広島大学), 瀧 寛和 (和歌山大学)

選択問題は, 理解の度合いを端的に確認する手段の一つとして広く利用される. 例えば生徒が, 授業の基本的な内容について自己の理解度を手軽に確認できる. 授業の補助教材として, 生徒の自習に利用する選択問題は, 授業の基本事項を問い, かつ同じ問題の繰り返しを避ける程度の量を準備する必要がある. 選択問題の作成に要する負担は, 選択問題の利用の問題点の一つである. 本稿では, 授業で利用する教科書に着目した選択問題の自動生成法の構想について述べる. 教科書には学習の目標となる基本事項が明示されている. 本研究は, 選択問題が問う内容を手続き的な解の導出や複雑な事実関係ではなく, 抽象-具体関係の理解に限定し, 電子テキスト中の下線部から問題文および正答・誤答選択肢の生成を目指す.

8. 学習ログとしての学習者の顔と教材画面の重畳画像の獲得

中村和晃, 角所 考, 美濃導彦 (京都大学)

近年, 教育分野への IT 技術の導入に伴い, e-learning システムを用いた非同期型の遠隔教育が広く行われるようになった. その e-learning システムの特徴の一つに, 学習者の学習履歴が学習ログとして記録・保存されるというものがある. これにより教師は各学習者の学習進捗状況が把握できるのであるが, しかし現在の学習ログでは学習者の学習の様子までは把握できない. そこで本研究では, 学習者の学習時の様子, 主に表情及び注視対象の2点が教師に把握できるような画像を, e-learning システムの学習ログとして記録・保存できるようにすることを目指す. 表情の把握には, 学習者の正面顔画像が適している. また, 注視対象が把握できるためには, 学習者の眼が, モニタ画面との位置関係が把握できる構図の下に観測できるような顔画像が必要である. しかし, これら2点を同時に満たす画像を直接実写で得ることは難しい. そこで本研究では, そのような画像を, ステレオ計測により復元した正面顔画像と教材画像とを重畳することにより獲得した. この重畳画像を教師役の被験者に提示した結果, 78.3%の正解率で正しく学習者の注視対象を把握した.

9. 学習者の感情状況を自動表示するオンライン討論システムの開発

Siah Gim Horn, 岡本敏雄 (電気通信大学)

インターネット上でテキストチャットを用いて遠隔協調学習支援を行う際の欠点として、非言語的コミュニケーションの不足が挙げられる。非言語的コミュニケーションは、学習者の状態に関する情報を正確に、短時間で伝達でき、了解性も高い。本研究では、非言語的コミュニケーションを用いて感情的表現を伝達する機能を、協調学習支援システムに実装することで、従来システムの短所を補うことを目的とする。これによって、学習者の議論参加への

モチベーションが高まることを期待している。システムは、テキストチャット上で、記号的方法(単語と句)とパラ言語的情報(大文字、句読点、顔文字)を利用することで、入力文字列履歴から感情推移を推測し、他の学習者の嬉しさ、驚き、怒り、混乱などの感情状態を顔チャートで表示する。同時に、混乱、退屈、自信等の状態を学習と感情の関連図上に点として表示し、対面のように直接に他者の状態を観察できるようにする。現在、システムを実装中であり、今後は評価実験による仮説検証を予定している。



◆◇ 研究報告書のお求めは ◇◆

研究報告書購入ご希望の方は、株式会社メディア・イッシュまで、TEL (03-5805-1901)、FAX (03-5805-1902) にお申し込みください。

1部1,300円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読(購読料は送料込みで年間4,000円)をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL (06-6990-3638)、Eメール (secretariat@jsise.org) までご連絡ください(年間6回)。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします。

(教育システム情報学会研究会委員会担当/伊東幸宏)



* 事務局からのお知らせ *

平成17年12月1日付けで事務局員が交代となります。

現 : 前川 佳代

新 : 川井 久美子



この度、教育システム情報学会の事務局員としてお世話になることとなりました川井と申します。事務局業務に関して不慣れな点、いたらない点など多々あるとは思いますが、会員の皆様にご迷惑をおかけすることのないよう日々努力して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんから紹介やインターネット上で流れているCFP情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡ください。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

新規情報 3件

CLS 2006: 7th International Conference of the Learning Sciences

開催日程: 2006年6月27日-7月1日

主催: The International Society of the Learning Sciences

論文応募締切: 2005年11月15日

開催地: Bloomington, Indiana

URL: <http://www.isls.org/icls2006/>

CAUL2006: IEEE International Workshop on Context Aware Ubiquitous Learning

開催日程: 2006年6月5日

主催: Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)

論文応募締切: 2005年11月25日

開催地: Taichung, Taiwan

URL: <http://caul2006.ncu.edu.tw/>

ITS 2006: The Eighth International Conference on Intelligent Tutoring Systems

開催日程: 2006年6月26-30日

主催: National Science and Technology Program for e-Learning

論文応募締切: 2006年1月6日

開催地: Jhongli, Taiwan

URL: <http://www.its2006.org/>

再掲情報 2件

ED-MEDIA 2006: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications

開催日程: 2006年6月26-30日

主催: Association for the Advancement of Computing in Education (AACE)

論文応募締切: 2005年12月19日

開催地: Orlando, Florida, USA

URL: <http://www.aace.org/conf/edmedia/default.htm>

FIE 2006: The 2006 Frontiers in Education Conference

開催日程: 2006年10月28-31日

主催: ASEE, IEEE Education Society, IEEE Computer Society

概要応募締切: 2006年1月16日

開催地: San Diego, USA

URL: <http://www.fie-conference.org/fie06/>

国際会議案内文責 松田 憲幸 (和歌山大学)

E-mail: matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp

2005年度第5回研究会開催案内

テーマ:教育実践システムと学習評価／一般

担当：研究会委員会
米澤宣義／佐々木整

開催日時：2006年 1月28日(土) 09:30 - 17:15
会場：日大文理学部

●プログラム予定(暫定版)



―― 委員長挨拶 ――

- (1) 09:35 - 10:00
VRML による 3D 地形図を利用した地理・地学のための WBT コンテンツ
○赤木剛朗(日本大学)・穴田浩一(早稲田大学高等学院)・土田賢省(東洋大学)
宮寺庸造(東京学芸大学)・安井真也・夜久竹夫(日本大学)
- (2) 10:00 - 10:25
オントロジーに基づく数学教育支援システムの提案
○後藤隆友・杉田公生(東海大学)・夜久竹夫(日本大学)
- (3) 10:25 - 10:50
ウェブベース英単語学習支援システムの提案
○朱 京波・片上大輔・新田克巳(東京工業大学)
- (4) 10:50 - 11:15
記憶の忘却を用いた日本語学習システム
○仲井間憲臣・姜 東植・宮城隼夫(琉球大学)
- (5) 11:15 - 11:40
情報処理技術者試験対策学力評価システムのMoodleによる構築
○津森伸一(岐阜聖徳学園大学短期大学)・伊藤 敏・磯本征雄(岐阜聖徳学園大学)

―― 昼食 ―――

- (6) 12:50 - 13:15
学習者行動に基づく学習状態遷移記述のための SCORM の拡張
○森本康彦(富士常葉大学)・植野真臣(長岡技術科学大学)・柴田晋吾(コンパック(株))
横山節雄・宮寺庸造(東京学芸大学)
- (7) 13:15 - 13:40
初学者を対象としたシステム設計議論モデルの提案
○関 葉留美・三村美香子・渡辺美穂・樫山淳雄・横山節雄・宮寺庸造(東京学芸大学)

- (8) 13:40 - 14:05
対話的モデリングにおける肯定的フィードバックに関する検討
○高村壮幸・林 大作・中村直人（千葉工業大学）
- (9) 14:05 - 14:30
KOMIチャートを用いたケアプラン策定過程におけるノウハウ情報の共有システムの開発
～ ユーザによる新規データの可視化の検討 ～
○江藤 香（日本工業大学）・松居辰則（早稲田大学）・権澤康夫（日本工業大学）
- (10) 14:30 - 14:55
QRコード利用による学習教材のマルチメディア化
～ PC用QRコード読み取りシステムの開発とその応用 ～
有坂 健・○佐藤芳幸・冨塚 宏（エアアンドエフ・コーポレーション）
森藤明法（帝京大学）

---- 休憩 ----

- (11) 15:10 - 15:35
KNOPPIXの教育利用と実践報告（3） ～ カスタマイズによる課題提出とその評価 ～
○佐々木 整・石野将教（拓殖大学）
- (12) 15:35 - 16:00
自宅学習用KNOPPIX作成の負荷軽減を目的としたWebベースカスタマイズシステムの開発
○石野将教・伍 学偉・佐々木 整（拓殖大学）
- (13) 16:00 - 16:25
携帯電話と非接触型ICカードを用いた授業運営管理システム
○樋川和伸・中西一夫・岡田政則（金沢学院大学）
- (14) 16:25 - 16:50
携帯端末を用いた出席登録・管理及び授業支援システムの開発
○高橋道祐・吉田法雅・小林洋介・篠永祐太・熊澤弘之（帝京大学）
- (15) 16:50 - 17:15
Go-Tutorの局面認識とCognitive Tool
○奥田富蔵・及川義道（東海大学）

---- 会場世話人挨拶 ----



新入会員の紹介

●新入会員（敬称略）

JSiSE-A0502441	近藤高司	愛知工業大学	正会員
JSiSE-A0502442	中島信恵	宇部フロンティア大学短期大学部	正会員
JSiSE-A0502443	藤本悦子	石川県立看護大学	正会員
JSiSE-A0502444	黒田尚宏	金沢医科大学	正会員
JSiSE-A0502445	藤本 徹	ペンシルバニア州立大学	準会員
JSiSE-A0502446	長岡 健	産能大学	正会員
JSiSE-A0502447	中田裕貴	株式会社 SCC	正会員
JSiSE-A0502448	新庄祐史	株式会社 NTT 東日本	正会員
JSiSE-A0502449	森 真幸	近畿大学	正会員
JSiSE-A0502450	佐藤智子	静岡県立大学	正会員
JSiSE-A0502451	中山由美子	関西大学大学院	準会員
JSiSE-A0502452	後藤佳子	三育学院短期大学	正会員
JSiSE-IA050088	小池義昌	NTT アドバンステクノロジー株式会社	企業・団体会員
JSiSE-A0502453	小池義昌	NTT アドバンステクノロジー株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0502454	富樫美紀	NTT アドバンステクノロジー株式会社	企業・団体会員からの正会員
JSiSE-A0502455	安倍富士男	盛岡白百合学園中等高等学校	準会員
JSiSE-A0502456	高路地修平	株式会社 UFJ 総合研究所	正会員
JSiSE-A0502457	中原 淳	東京大学	正会員
JSiSE-A0502458	江藤由布	近畿大学付属高校	正会員
JSiSE-A0502459	井口信和	近畿大学	正会員
JSiSE-A0502460	渡久地 啓	沖縄女子短期大学	正会員
JSiSE-A0502461	西村朋子	富士通株式会社	正会員
JSiSE-A0502462	山田哲也	滋賀県立瀬田工業高等学校	正会員
JSiSE-A0502463	高橋直人	デジタルハリウッド大学院大学	準会員
JSiSE-A0502464	山田耕太郎	比治山大学	正会員
JSiSE-A0502465	高嶋重行	はつしば学園小学校	正会員

2005 年度新入会員（2005 年 8 月 23 日～2005 年 11 月 24 日）



もくじ

第 6 回研究会参加者募集のご案内	1
第 2 回研究会の報告	2
第 3 回研究会の報告	4
事務局からのお知らせ	6
国際会議の案内	7
第 5 回研究会のプログラム案内	8
新入会員の紹介	10